



台原の自然

2011.7.22

第25号

〒981-0903

仙台市青葉区台原森林公園4番1号

仙台市科学館

TEL:022-276-2201

FAX:022-276-2204

<http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/>

盛夏を迎えた台原森林公園



リョウブ *Clethra barbinervis*
里山から山地帯まで広く分布する。高さ3~7m。斑状に樹皮がはがれ落ちる性質があり、種の識別のヒントとなる。

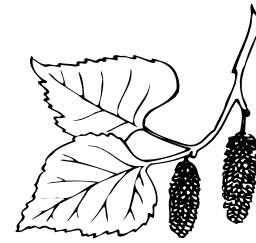
枝が輪状に出る。若枝は褐色でわずかに星状毛をつける。葉は互生し、枝の先にあつまり、倒卵形、先は短く鋭尖、葉の基部はくさび形。

花期は7~8月で枝先に数個の総状花序を円錐状につける。多数の白い花がつく。



ヤマユリ *Lilium lancifolium*

山地の草原や低木林の中に見られる多年草。鱗茎は径10cm内外。茎の地中部は多くの根があり、地上部は高さ1~1.5m。葉は卵状披針形、長さ15-20cm、幅2.5-5cm、鋭尖頭、基部は円く短柄がある。5脈が明らかで、両面無毛、ふちに低い半円形の小突起がある。質はやや厚い。花は7~8月、茎の先に1~6個つくが、栽培のものはずっと多くつく。花被片は長さ10~18cm、野生種としては特大の大きさを誇る。



ヤマウルシにご用心！

台原森林公園のアカマツが老齢化し、マツクイムシ、そしてマツノザイセンチュウによって道管が詰まってしまう、枯死するものが増え始めています。被害を押し返すために営林署の方が点検をしながら必要に応じて燻蒸処理をしています。

アカマツが占めていた林冠部が、その枯死によって開けた状態になると、周辺の樹木が一斉に成長を始めます。

ヤマウルシは元々、陽樹（日当たりの良い場所でしか生きていけない樹種）なので、そういった開けた場所（生態学用語でギャップと言います）で著しい成長を見せます。森林公園内にもヤマウルシが増えている場所がありますので、十分にご注意ください。下写真は明るい場所で成長し始めた低木状のヤマウルシです。



【ジャガイモに実がつかました！】

中南米原産でその起源は古く、インカ文明を築いた主要食糧の一つであったと考えられています。スペインによるインカ帝国征服後にヨーロッパに伝えられ、やがては世界の四大作物の一つになった作物です。

日本には16世紀末頃、オランダ人によりジャガトラ港（ジャワ島）から長崎に伝わり、救荒作物として次第に定着しました。和名の由来は「ジャガトラ港から来たイモ」の意とされています。大正時代以降に全国に普及しました。第二次大戦時は重要な食糧作物とされ、現在は各種の料理にむいてる栄養価値の高い重要な食品になっています。ジャガイモの場合は、他の野菜と違い、外国産の古い品種が現在も主要品種になっています。

写真はジャガイモの実とトマトを比べたものです。類縁関係が近いので実もそっくりです。

編集後記

森林公園を散策していると、ヤブ蚊に悩まされる季節となりました。虫除けスプレーを肌が露出している部分に吹き付けて、万全の状態にしてください。歩いているときは大丈夫ですが、立ち止まって観察し始めたときから、ヤブ蚊の猛攻を受けることとなりますので。